

2023年9月11日

三井化学株式会社

プラスチック資源循環の促進を目指す「AEPW 東京サミット」に参加

三井化学株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 修）は、2023年9月6日、廃棄プラスチックを無くすことを目指す国際アライアンス「Alliance to End of Plastic Waste」（以下、AEPW^{*1}）と東洋経済新報社が共催する「AEPW 東京サミット」に参加しました。「日本におけるプラスチックの資源循環の現状と促進における課題」を議論するこのイベントは、AEPW の設立 4 周年の節目に、AEPW の成果と、参画企業のサーキュラーエコノミー実現に向けたプラスチック資源循環の取り組みを紹介する活動の一つです。

当社は AEPW の取り組み趣旨に賛同し、設立メンバーとして 2019 年 1 月より参加しており、プラスチック資源循環につながる開発（メカニカルリサイクル、ケミカルサイクルの技術開発等）に取り組んでいます。

ALLIANCE
TO END
PLASTIC
WASTE 



当日のパネルディスカッションの様子、
左から二番目：三井化学 橋本社長

パネルディスカッションに登壇した橋本社長は、サーキュラーエコミー実現に向けた企業の役割について、「これまでの資源を消費して廃棄するという一方通行の経済から、資源の回収・再利用により、廃棄物を出さないサーキュラーエコミーへの転換が必須。総合化学企業の役割として、[リサイクルをはじめとする各種技術開発](#)だけでなく、バイオマスなどへの原料転換、[リユース、シェアリング](#)といったビジネスモデルの転換にも取り組んでいく。また、社会変革を進めるため、[実証試験の推進](#)、ブランディングやデジタルマーケティングをバリューチェーンとの協業を通じて行い、積極的に発信していく。」と述べました。

当社は、VISION 2030 の基本戦略の一つにサーキュラーエコミーへの対応強化を掲げています。戦略推進の施策と併せ、AEPW のプロジェクトや参画企業との積極的なアライアンスを通じて、プラスチック廃棄物問題の解決にも取り組んでいきます。

*1 [AEPW \(Alliance To End Plastic Waste\)](#)

AEPW は、2019 年 1 月に、廃棄プラスチック問題の解決に向けて発足した、国際的な非営利団体。現在、化学、プラスチック加工、小売り、廃棄物管理など、プラスチックのバリューチェーンに携わる世界各国の 90 を超える企業・市民団体、組織が参加している。各社の強みを生かしたアライアンスを通じ、インフラ整備、イノベーション、教育・啓発、清掃の 4 分野に資金を投じ、持続可能な社会への貢献を目指す。現在、約 30 か国で AEPW が支援する 50 以上のプロジェクトが進捗している（2023 年 8 月時点）。

<ニュースリリースに関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部

TEL 03-6880-7500

お問い合わせフォーム：https://form.mitsuichemicals.com/corporate/cc_pr_csr_ja